



乳幼児教育・保育推進事業 通信  
～令和6年度 保幼小連携専門部会～



令和6年7月26日(金)に、令和6年度第2回宇治市乳幼児教育・保育推進協議会 保幼小連携専門部会を開催いたしました。  
部会の様子をお知らせします。



第2回の主な内容

○検討

(現状の把握・課題の抽出・課題に対する対応策の検討)

- ・(仮称)架け橋ブロックを活用した保幼小連携の推進策について
- ・就学前の子どもが小学校への期待感を高められる取組の推進について



専門部会とは



「保幼小連携」「研究・研修」「発達・子育ての支援」の推進にあたり、現状の把握、課題抽出、対応策の検討、研究・研修の企画実施について、乳幼児教育・保育の実務をよく知る職員の意見を反映できる仕組みとするために設置したもの。



○検討（現状の把握と課題の抽出・課題に対する対応策の検討）



<グループワーク>

テーマ 「(仮称) 架け橋ブロック内での交流と感想」

Aグループ

招かれる側が「お客さん」にならないことを意識して交流の内容を考えている  
学期ごとの授業の内容で交流をしている  
就学前施設の先生から子どもたちが好きだった歌や手遊びを教えてもらい、それを小学校で子どもたちと一緒にすることで小学校に慣れてもらう  
年間計画を立て、無理をしない範囲で取組を進めることが大事  
担任が変わっても連携が途切れないように進めていくことが課題

Bグループ

1年生は幼稚園の小さいプールを体験し、5歳児は小学校の大きなプールを体験する  
1年生が幼稚園から借りたウサギを飼育し、学習した内容をまとめた資料を幼稚園に提供する  
1年生は5歳児に優しく接するとともに、5歳児は1年生の様子を見て「やってみたい気持ち」になるなど、双方にとってよい交流ができている  
計画する時期、窓口となる担当者、何回程度打合せを行うなど、具体的な方針があれば連携を進めやすくなる

テーマ 「より良い交流に必要なことは何か」

Aグループ

小学校と就学前施設の先生同士が親しくなることが大事  
課題のある子どものことを小学校に伝えに頻繁に足を運ぶことで、その子どもの理解を深めていただく  
保幼小連携のコーディネーターの方がいると日程調整などがしやすい

## Bグループ

朝に15分の時間を設けて就学前施設での遊びを取り入れる。そのことで自然に友達ができ、小学校生活がスムーズに送りがよくなる

小学校も就学前施設も互いに行った交流についてのフィードバックの機会を設ける  
先生同士が気軽に話せる関係性が必要

テーマ 「幼児の小学校への期待感を高められる取組とは何か」

## Aグループ

小学校でも折り紙やブロックなど就学前施設で触れ合っていたような物で遊べる時間を設ける

砂場は、小学校では体育のために使用し、遊び目的で使用する就学前施設とは目的が異なるため、移動式の砂場など感触を楽しめる環境があるとよい

半日入学において、「できる・できない」をチェックするよりも、子どもたちに小学校へ行って「楽しかった」と思ってもらえるような取組

## Bグループ

同じ校区内にある就学前施設の子どもたち同士の交流

「秋みつけ」などの参加形式の授業で、どんぐりを拾ったりする経験を通じて小学校の場所に慣れる



## (仮称)乳幼児教育・保育支援センターとは

施設類型を越えて全市的に連携・協働し、各施設での取組を共有することにより、これまで以上に、保幼小連携の取組推進や人材育成など、教育・保育の質の向上を図ることが可能となると考え、その仕組みづくりとして(仮称)乳幼児教育・保育支援センターを設置する。

## 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会とは

すべての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築すべく、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有し、連携、協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図るとともに、各施設間、家庭・地域の教育・保育力の確保・向上を支援するため、宇治市乳幼児教育・保育推進協議会を設置する。

